

東京羽田 穴守稲荷神社摂社

航空稲荷御由緒

首都東京の空の玄関口である東京国際空港(羽田空港)は、かつては要島とよばれ、穴守稲荷神社の鎮座地として国内外の参詣者や旅行者で大いに賑わい、東国一と謳われる眺望秀美な臨海保養地としても知られておりましたなかでも鴨場を有する料亭鉾泉宿「要館」は政財界の重鎮からも親しまれ、主人の石關倉吉はその篤信から稲荷山築造に深く関わるなど、羽田穴守の発展に大きく寄与した人物です

大正六年(一九一七年)、民間飛行家の草分けたる玉井清太郎と相羽有らは、要館主人の支援によって羽田穴守の地に「日本飛行学校」を創立、以降羽田は航空の適地としても注目される様になりました当時パイロット候補生達の間では、穴守さまに油揚げをお供えしたところ、初飛行が上手くいったとの逸話があり、これが穴守稲荷の航空安全信仰の始まりです

その後昭和六年(一九三二年)には神社裏手に「東京飛行場」が開港 新しい飛行機は先ず穴守稲荷でお祓いし進空式を行うなど、飛行場は神社と共に発展してゆきます

しかし先の大戦ののち、神社とその社前町は飛行場拡張のため、ただ一基の大鳥居だけを残し文字通り空港の礎として埋め立てられますが、信仰が失われる事はありませんでした

昭和三十年(一九五五年)五月十七日、羽田空港旧ターミナルビルが穴守稲荷の本殿跡に建設されその屋上には空港鎮護の社として「穴守稲荷空港分社」を奉斎 以来、航空関係者の篤い崇敬もあり追って勧請された「羽田航空神社」と連れ添って、四十年に渡り空港の安全と繁栄を見守り続けます

平成の御代になり空港沖合展開が始まると、「羽田航空神社」は新ターミナルビルへ「空港分社」は一衣帯水の地へと遷座した穴守稲荷本社に合祀されましたがいずれの御社も穴守稲荷の神職により祭祀が続けられ、神社と空港との御神縁も拡張発展に伴う祭礼をもって、より深まります

そして穴守稲荷神社令和の大改修を機に、その御神霊は空港分社として数多の方から篤い崇敬を受けてきた由緒を鑑み、改めて摂社「航空稲荷」として境内に二祠を構え内外の航空業界を始めとする篤信家たちの翼けを得て、復興への一歩を歩み出します航空稲荷の大神さまは、今日も大空へ羽ばたく銀翼を間近に見行わし空の安全を願う人々の列なみは、絶ゆる事ありません

初穂料 五〇〇円

頒布日 毎月十七日及び空の旬間

(九月二十日～三十日)

皇月例祭(五月十七日)と空の日(九月二十日)は特別冠房印を押印致します

航空稲荷御朱印



内外の航空会社より奉納された幟旗(毎月17日掲揚)



旧ターミナルビル時代の
穴守稲荷空港分社(左)と羽田航空神社(右)

穴守稲荷羽田航空史略年表

文化
文政

1804~1830頃

明治
1886.11

1902.6.28

昭和 大正

1917.1.4

1929.10

1931.8.25

(戦後)

1945.9.21

1948.2.24

1952.7.1

1955.5.17

1958.6.30

平成

1993.9.27

1999.2.3~4

令和

2020.4.19

2022.5.17

1936年
(大戦前夜)

日本飛行学校
(1917)

旧穴守稲荷神社
(1886-1945)

穴守稲荷 空港分社
(1955-1993)

穴守駅(2代目)
(1913-1945)

旧一の大鳥居(1929-1999)

1945年頃
(終戦直後)

日本飛行学校
(1917)

旧穴守稲荷神社
(1886-1945)

穴守稲荷 空港分社
(1955-1993)

穴守駅(2代目)
(1913-1945)

旧一の大鳥居(1929-1999)

1984年頃
(旧ターミナル時代)

日本飛行学校
(1917)

旧穴守稲荷神社
(1886-1945)

穴守稲荷 空港分社
(1955-1993)

穴守駅(2代目)
(1913-1945)

旧一の大鳥居(1929-1999)

現在
(新B滑走路)

日本飛行学校
(1917)

旧穴守稲荷神社
(1886-1945)

穴守稲荷 空港分社
(1955-1993)

穴守駅(2代目)
(1913-1945)

旧一の大鳥居(1929-1999)

この地図は、時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」(C)谷 謙二により作成したものです。
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図、2万5千分1地形図
及び2万分1正式図を複製したものである。(第62号平2ス情機、第1088号)

e
空港全面返還

境内跡地に旅客ターミナルビル開館

屋上に穴守稲荷神社空港分社を奉斎(以降、五月十七日が例祭日)

連合国軍の指令により空港接収 穴守稲荷を含む羽田三町住民は
四十八時間以内の強制退去 「ハネダ・エアベース」となる

穴守稲荷神社現在地(羽田五丁目)に遷座
滑走路等大部分が返還 「東京国際空港」に改名

AIR TAXI

飛行

写真提供(※1~3)
羽田航空博物館、日本航空(HASMI)、山正人さま

発行:穴守稲荷神社々務所
〒144-0043 東京都大田区羽田5丁目2番7号
https://anamori.jp X/Instagram: @anamoriofficial

羽田要島(現羽田空港)の堤上に二祠を構え、霊験あらたかにて
「穴守稲荷」と称される

a 穴守稲荷神社社号官許

b 日本初の神社参詣電車 京浜電鉄穴守線(現空港線)開業

c 神社門前に日本飛行学校開校

d 一の大鳥居 建立(空港内に唯一現存する鳥居)

境内裏手に東京飛行場開港(以降、八月二十五日が開港記念日)

